

## 1. 英語を読む

次の文章は、Apple Computer の創設者 Steve Jobs 氏が 2005 年 6 月、スタンフォード大学の卒業式で述べた祝辞の一節です。

Sometimes life hits you in the head with a brick. Don't lose faith. I'm convinced that the only thing that kept me going was that I loved what I did. You've got to find what you love. And that is as true for your work as it is for your lovers. Your work is going to fill a large part of your life, and the only way to be truly satisfied is to do what you believe is great work. And the only way to do great work is to love what you do. If you haven't found it yet, keep looking, and don't settle. As with all matters of the heart, you'll know when you find it. And, like any great relationship, it just gets better and better as the years roll on. So keep looking. Don't settle.

時として人生ではレンガで頭をから割られるようなことが起きるものです。(しかし)信念を失ってはいけません。私を駆り立ててくれたのはただ一つ、自分のしていることが大好きだという気持ちだったと、私は確信しています。皆さんは自分が大好きなものを見つけなければいけません。それは仕事でも恋人でも同じように当てはまります。皆さんはこれから仕事で人生の大きな部分を占めていくでしょうが、自分が本当に心の底から満足を得たいなら進むべき道はただ一つ、自分が素晴らしいと信じる仕事をすることです。そして素晴らしい仕事をしたいなら進むべき道はただ一つ、自分のする仕事が好きであることです。まだ見つからないなら、探し続けること。落ち着いてしまってもいいけません。心の問題と一緒に、そういうのは見つかるまでピンとくるものです。そして素晴らしい人間関係と同じように、年を重ねるにつれてどんどん良くなっていく。だから探し続けること。落ち着いてしまってもいいけません。

英語で文章を書いたり、英語で話しをしたりするには**英語を発信する力**が必要ですが、それより前に、英語の文章が読め、英語を聞いて分かるという**受信する力**を身に付けていかねばなりません。ここで留意していただきたいのは、受信とは「読んで[聞いて]」意味が分かることであって、必ずしも「和訳することではない」ということです。例えば **This is my house.** のような文であれば、中1の夏を過ぎる頃にもなればイメージが脳裏に浮かび、和訳しなくても意味は分かるはずですが、しかし内容が抽象的になりイメージしづらくなると、日本語に置き換えた方が分かりやすくなります。冒頭の文章はテーマが生活に密着したもので抽象度が高いとはいえませんが、高校生になってから **GNOBLE** の門を叩く方のほとんどがこのレベルの英語が読めないのが実情です。以下のように読むのが **GNOBLE** 流で、授業の時にもこのように解説します。例として下線部を取り上げます。

I'm convinced 私は確信している(何を?) **that the only thing** 唯一のこと(どんなこと?) **that kept me going** 私を進ませ続ける **was** は…だった(何だった?) **that I loved** 好きだったということ(何を?) **what I did** 私のすることが .

和訳問題の答案としてこのまま解答欄には書けませんが、十分に受信できていることはお分かりいただけだと思います。また、英語力が高まるにつれて、区切れ目は少なくなっていくと思います。

I'm convinced 私は確信している(何を?) **that the only thing that kept me going** 私を進ませ続ける唯一のことは(どんなこと?) **was that I loved what I did** 私のすることが好きだったということ .

要するに「英語を読む」には、以下のようにすれば良いのです。

**区切りを見つけて意味を捉え ⇒ 自然に湧いてくる疑問と共に ⇒ 左から右に読んでいく**

## 2. 英語を聞く

「読む」際には文末のピリオドに到って「あれ？(分からない)」と感じたら、時間は失いますが文の初めに戻って読み返すことが可能です。しかし、冒頭の一節は『祝辞』として語られたものでした。「英語を聞く」場合には、音は聞こえた刹那すぐに消えてしまいますから、前に戻ることはできません。英語の語順のまま受信する必要は一層高まります。(ただし、聞く場合には話し手が意味の切れ目で一瞬ポーズを入れますので、意味の切れ目を誤解する可能性は低くなります。もちろん、英語を聴き取る耳が鍛えられていることが前提の話ですが。)

## 3. 文法力と語彙力

さて、ここで問題が2つ生じます。1つは**どうすれば区切りを正しく見つけられるか**ということ、もう1つは**どうすれば区切りの内側の意味が分かるか**ということです。

「区切りを見つけて」と言うのは簡単ですが、英語を読めない人は区切りを正しく見つけられませんが、例えば先ほどの下線部を

I'm convinced that the only thing that kept me going was that I loved what I did.

のように区切ってしまったらどうでしょうか？正しく受信できる見込みはゼロです。また、convince という動詞を知らなければ、I'm convincedの意味は分かりません。そこで、**文法力と語彙力**が必要になります。

### ▼文法力＝区切りを見つけ、区切り同士の関係を掴む力

GNOBLE では、特に中学生の間は**英文法**を重視していますが、それはテストの文法問題に正答するためというよりむしろ、**区切りを見つけて区切り同士の関係[構文]**を把握する力を培うためです。先ほどの下線部は、文法[構文]的には、I'm convinced<sub>(SV)</sub>に続くthat節が

- [<sup>①</sup>that the only thing<sub>(S)</sub> (<sup>②</sup>that kept me going) was<sub>(V)</sub> [<sup>③</sup>that I loved [<sup>④</sup>what I did]]<sub>(C)</sub>]<sub>(O)</sub>で
- ①that は接続詞。be convinced の目的語になる[名詞節]を導いている。
  - ②that は関係代名詞。先行詞である that 節内の主語<sub>(S)</sub>を修飾する(形容詞節)を導いている。
  - ③that は接続詞。that 節内の動詞<sub>(V)</sub>の補語になる[名詞節]を導いている。
  - ④what は関係代名詞。loved の目的語になる[名詞節]を導き、節内で did の目的語になっている。

のように(我々英語教師は)説明できますが、英語のネイティブはいちいちこのような分析をしながら読んでいたわけではありません。それは、我々日本語のネイティブが日本語の文法を意識せずに日本語を運用しているのと同じことです。

ここで気をつけなければいけないことがあります。それは、**ネイティブは文法を意識していないだけであって、文法をしっかりと身に付けているのだ**という事実です。日本語のネイティブであれば、「『動く』という動詞は五段活用する動詞だから、『ない』に接続するときには未然形の『動か』という活用形を用いるのだ」などと分析することなく、「『動かかない』は正しいが『動くない』は間違いだ」と瞬時に判断できますが、それは、文法が身に付いているからできることなのです。

GNOBLE では**英文法**を身に付けるために、中学生テキストの基本例文＝Sentences for Workoutを全て\*GSL 化し、\*Workout を通じて意識せずに運用できるように指導しています。以下の英文は全て Sentences for Workout からの抜粋です。\*GSL と\*Workout については本資料の4. と5. で説明します

①that: We are happy **that** you saw your mother again. 【中1E4 タームテキストより】

②that: The novel **that** was written by the writer won the prize. 【中2夏期講習テキストより】

③that: My first impression was **that** he was really funny. 【中3夏期講習テキストより】

④what: I don't believe **what** you've just said. 【高1G4 タームテキストより】

Workout によって以上の文法事項をしっかりと身に付けている生徒は、I'm convinced **that** the only thing **that** kept me going was **that** I loved **what** I did.を切れ目を見つけながら、返り読みすることなく、一度で意味を捉えることが可能です。

(英語科資料の最後に『参考資料2』としてここで引用した GNOBLE 英語テキストの文法説明部分を抜粋してあります。また、引用文中の下線部は、難しい語は1つもありますが、正確に意味を捉えるにはしっかりとした文法力が必要です。読み書きに必要な文法力の有無を確認したい方には、指標としてお読みいただけます。)

### ▼語彙力=区切り内の意味を捉える力

GNOBLE では中3の夏期講習から大学入試レベルの長文を読み始めます。文法を習得している生徒でも、英文の中に知らない語がたくさん出てきます。**語彙の壁**にぶつかるわけです。

未知の語があっても文脈から想像することは可能ですし、そうすることは非常に大切です。しかし一文の中に3つも4つも意味の分からない語があれば、想像するにも限界があります。そこで、相談に来る生徒がいます。「先生、単語がわからないから長文が読めません。市販の単語集を買って覚えようと思うのですが、どの単語集がおススメですか？」我々は回答します。「単語集で英単語と日本語訳を一対一対応で暗記するようなことはしないでください。板書で説明した語彙解説を写した『**語彙ノート**』を作って頻繁に目を通し、英語の本文を**音読**の Workout(後述)で頭に沁みこませてください。辞書を引いたら、必ず**語源**の説明を読むようにしてください」と。

漢字を「偏(へん)や旁(つくり)」を組み合わせると意味が類推できると同じように、英語の語も、『**接頭辞**+**語根**+**接尾辞**』の組み合わせで**意味をイメージ**することができます。例として、**dict**という**語根**と**接頭辞**・**接尾辞**の組み合わせを挙げます。【 】内が意味のイメージ、「 」内が訳語です。

dictate = **dict** 言う + ate…させる ⇒ 【言いつける;言って書き取らせる】「命令する;書き取らせる」

>dictator = dictate + or…する人「独裁者,権威者;口述者」

>dictation = dictate + ion 名詞語尾 「指図,指令;書き取り」

diction = **dict** 言う + ion 名詞語尾 ⇒ 【言うこと,言い方】「言葉づかい,言いまわし」

>dictionary = diction + ary…に関する場所 ⇒ 【言いまわしが収録されている場所】「辞書」

predict = pre 前もって + **dict** 言う ⇒ 【前もって言う】「予言する」

>prediction = predict + ion 名詞語尾 「予言」

contradict = contra 反対に + **dict** 言う ⇒ 【反対を言う】「反論する;矛盾する」

>contradiction = contradict + ion 名詞語尾 「反論;矛盾」

>contradictory = contradict + ory 形容詞語尾(…の性質がある)「反抗的な;矛盾した」

先の下線部に出てきた convince であれば、GNOBLE の授業ではどの講師も、**接頭辞 con** 全く、すっかり + **語根 vince** 征服する ⇒ 【完全に(精神的に)征服する→思い込ませる】「納得させる,確信させる」のように板書して、同じ**語根**を含む convict, victory, victor, invincible などにも言及します。

高校生にもなると生徒は電子辞書を持ち歩くようになりますが、電子辞書に入っている英和辞典はほとんどが大修館書店の『ジーニアス』です。『ジーニアス英和辞典』(第4版)で convince を引くと見出し語と発音記号のすぐ後に、【原義:完全に(con)征服する(vince) →説得する。[派] → conviction(名)】と説明されています。その兄貴分に当たる『ジーニアス英和大辞典』を引くと、【初16C;ラテン語 convincere(征服する)より. con(完全に)+vince(征服する). convictと同語源. cf.

victory, victor】と、より詳しく解説されています。また、三省堂の『ウィズダム英和辞典』（製本されている辞書を購入すると、無料でウェブ版が利用できます）では

**con・vince** <sup>\*</sup> /kənˈvɪns/ 【音声】 [con(完全に)vince(征服する)] ((名)conviction, (形)convinced, 以下省略…

と出ています。英和辞典を引いたらこれらの説明を読むのを習慣にすることが必要です。

単語集で単語を覚えようとする試みは、泳げない人が、泳ぐのに必要な筋肉をウェイトトレーニングをして鍛えようとするようなものです。効果が全くないとまでは言いませんが、それが泳げるようになることには直に結びつきはしません。泳げるようになるには、泳いでみるしかないのです。泳いでいる(=英語を読んでいる)内に、泳ぐのに必要な筋肉(=語彙力)は自然と身に付いてゆきます。

#### 4. GSL[GNOBLE Sound Laboratory=グノーブルの音声による演習]



GNOBLE の授業では英語の仕組みを**理解**してもらおうことをとても大切にしていますが、英語はコトバですから、理解したことを**身に付ける**訓練をしなければいけません。そのトレーニング[ワークアウト]をするために、6 学年全てに GSL という音声教材を導入しています。中学生は文法テキストの基本例文[Sentences for Workout]の音声を、高校生は長文の音声を、ウェブサイトで配信しています。暗証番号を入力して、MP3 形式で音声を簡単にダウンロードできます。

中学生には、Sentences for Workout の基本例文を**何度も聴いて音読し、暗誦できるくらい親しんでくる**という宿題を全学年・全クラスで課しています。翌週の授業の最後にその中から 3 本の英文を放送して書き取らせ、定着度を確認します。これによって英語の音を聴き取る力がついていくだけでなく、理解できたことが身につく、語彙も自然に増えていきます。

高校生には**長文の音声を配信し、授業で解説を聞いたのでしっかりと理解できている長文を繰り返し聴き、何度も音読するように指導**しています。音読すると返り読みができないので、英文の意味を前からカタマリごとに捉えていくことができるようになります。このやり方でスラスラ音読できる長文を一つ一つ増やしてゆくと、初見の長文でもかなりのスピードで読めるようになります。

#### 5. 受講効果を上げるために

##### ▼休まず・遅れず

授業は各科目とも年間に 50 回しかありません。伸びる生徒は欠席も遅刻もせずに【宿題⇒授業⇒復習…】のサイクルを生活に組み入れている方です。【授業】を**休むと**、授業中の緊張感を持った演習ができず、演習後の痒いところに手が届く解説を聞けなくなるだけでなく、その前後の【宿題…復習】の**学習サイクル全てを失う**ことになります。中学生であれば、新出単元の導入授業も受けられなくなります。また、部活など理由はあるのですが、遅れてくるのも感心しません。5 分でも遅刻するなら、振替授業に出席することをお勧めします。(この点で、振替先のない現中1と中3の方には申し訳なく思っております。来年度は改善できるよう、体制を整えて参ります。)

##### ▼宿題と復習

英語科では、中1から高3の全てのクラスで毎週一定量の宿題を出しています。問題を解いたり、提出する英作文を書いたりといった宿題には、毎週取り組んでいただかなくはなりません。これをやらずに漫然と授業に参加しているだけでは、英語力の向上は望めません。

宿題をしっかりとやるのは最低限のことで、英語力が伸びるかどうかは Workout を継続して行うことにかかっています。生徒の皆さんには繰り返し指導していることですが、確認のため掲載します。

▽中学生のワークアウト:小ターム毎に配付するテキストの巻頭に記してある以下の勉強方法を、継続して行ってください。それで英語の基礎力は万全になります。

—— 授業で「理解」したことを「身に付ける」ための具体的なトレーニング[Workout] ——

- ① **Listening**[聴き込み]:授業で理解した例文を、テキストを見ないで繰り返し聴く(回数は全ての文が完全に聴き取れるまで)。電車の中での時間も利用する。
- ② **Retention/Shadowing**[口まね]:**Retention** は、英文一本を丸ごと聴き取った後で、まねて発声する練習方法。**Shadowing** は、聞こえた英語をすぐさままねて発声する。
- ③ **Reading aloud**[音読]:②の **Workout** で耳に残っている音を利用して、テキストを見ながら一文を音読する。目安は一文につき5回。
- ④ **Recitation**[暗誦]:③の **Workout** の後すぐに、テキストは見ないで声を出して暗誦する。目安は一文につき10回。
- ⑤ **Dictation**[書き取り]:④が終わった後、日を改めて行う。英文一本が流れ終わったら、丸ごと書き取る。書き取ったものをテキストと照合して、つづりの間違いなどがいないかを確認する。

以上の **Workout** が終わったあとで、宿題として出されているテキストの問題を解いてください。必要なことが頭に入っているので、スラスラと解けるはずです。

▽高校生のワークアウト:読解問題に関しては、以下のワークアウトを継続して行ってください。

- ① **Listening**[聴き込み]:授業で理解した **GSL** 対応の長文を題材にする。
  1. 音声を聞きながら、意味を意識しつつ目で英文を追いかける。慣れるまで繰り返す。
  2. 意味を意識しながら、繰り返し音声を聞く。(以上は電車の中での時間も利用する。)
  3. 音声を聞き、目で英文を追いかけて、まねして声を出す。口がうまく回るまで繰り返す。いずれの場合も、意味の切れ目を意識し、切れ目ごとに意味をイメージする。
- ② **Reading aloud**[音読]:授業で理解した長文を題材にする。スラスラ読めるようになるまで音読する。目安は最低10回。音読の効用は、具体的には以下の三点です。
  1. 声に出して読むと左から右にしか読んでいけない[右から左へのいわゆる「返り読み」ができない]ので、英文の情報を「表現の持つ意味の単位で区切って、出てくる順番に頭の中に入れる」ことができるようになる。= **1回読んだだけで分かる力がつく!**
  2. 声に出して読むと日本語に置き換えることができないので、英文の意味を英語のまま捉えられるようになる。= **速く読める力がつく!**
  3. 「目」だけでなく「口」と「耳」も使っているので、文法や語彙が記憶に残りやすくなる。  
= **英語力そのものが向上する!**

## 6. 今後の予定

E1ターム3回目の授業でクラス分けテストを実施しました。各学年の平均点は以下の通りです。  
中1:54.9点 中2:46.2点 中3:40.5点 高1:43.6点

このテストの結果により、E3タームから新クラスとなります。

冬期講習明けの F1タームの授業内で次のクラス分けテストを行う予定です。春期講習からの新学年のクラスを決めるテストになります。冬期講習で学習するところまでが出題範囲ですので、当面の学習目標にしていただければと思います。

来年度、新中2は現在の水曜に加えて月曜日に、新高1は現在の火曜に加えて金曜日にも英語を開講する予定です。F1ターム実施のクラス分けテスト結果発表時に、正式にお知らせします。

(以上本編)

## ▼参考資料1:GNOBLE 英語科カリキュラム

### ▽中1:小ターム[G1 など]ごとに1冊のテキストを配付(⇒の直後はテキストタイトル)

春期講習(4回) ⇒スタートダッシュ講座:アルファベット/スプリングと発音の関係/基本ワード/センテンスの成り立ち

G1 ターム(3回) ⇒be 動詞の文: am, are, is の使い分け 主格と所有格 冠詞

G2 ターム(4回) ⇒疑問詞・複数形・There 構文: 疑問詞を使う疑問文 (代)名詞の複数形 存在文 数量形容詞

G3 ターム(3回) ⇒一般動詞の文: have like, play, study 等 三人称単数 否定文と疑問文 命令文 Let's ~

G4 ターム(3回) ⇒非人称の it・助動詞入門: 非人称の it 助動詞 can, may, must, shall

夏期講習(8回): 動詞1/動詞2/動詞総合/命令文/疑問詞1/疑問詞2/助動詞/現在進行形

E1 ターム(3回) ⇒動詞の過去形: be 動詞の過去形 一般動詞の過去形(規則変化と不規則変化)

E2 ターム(4回) ⇒感嘆文・未来の文: 感嘆文 will と be going to

E3 ターム(4回) ⇒比較入門: 形容詞・副詞 原級を用いる比較 比較級を用いる比較 最上級を用いる比較

E4 ターム(3回) ⇒接続詞入門: 等位接続詞 副詞節を導く従位接続詞(because, when, if 等) 名詞節を導く that

冬期講習(4回) ⇒動詞と時制1/動詞と時制2/助動詞/比較

F1 ターム(3回) ⇒不定詞入門: 副詞用法(目的と原因) 名詞用法(SとCとO)

F2 ターム(4回) ⇒文型入門: 品詞 文の要素・句と節 SV, SVC, SVO SVOO, SVOC

中1のE4まではひたすら文法を学習します。冬期講習から読解を導入します。  
授業の最初の演習プリントと最後の dictation のお帰り問題で、定着度を確認しています。

### ▽中2:小ターム[G1 など]ごとに1冊のテキストを配付(⇒の直後はテキストタイトル)

春期講習(4回): 動詞と文型/助動詞・時制/現在完了入門(前編)/現在完了入門(後編)

G1 ターム(3回) ⇒不定詞・動名詞: 名詞用法の不定詞 動名詞 形容詞用法の不定詞 副詞用法の不定詞

G2 ターム(4回) ⇒文型: SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC

G3 ターム(3回) ⇒受動態入門・現在完了・接続詞: 受動態入門 現在完了 接続詞

G4 ターム(3回) ⇒関係代名詞と分詞入門: 主格の関係代名詞 目的格の関係代名詞 分詞の形容詞用法

夏期講習(8回): 文型/不定詞1/不定詞2/動名詞・分詞/受動態/現在完了/比較/関係代名詞

E1 ターム(3回) ⇒準動詞: 名詞の働き 形容詞の働き 副詞の働き(初出の\*分詞構文を含む)

E2 ターム(4回) ⇒接続詞: 相関接続詞や名詞節を導く if, whether を含む

E3 ターム(4回) ⇒疑問文: 修辭疑問 付加疑問 間接疑問

E4 ターム(3回) ⇒関係代名詞: \*what と\*非制限用法を含む(初出)

冬期講習(4回): 中学英語の完成: 動詞とその周辺/不定詞・動名詞/分詞・関係代名詞/比較他

F1 ターム(3回) ⇒関係副詞・前置詞: \*関係副詞初出 前置詞を体系立てて扱う

F2 ターム(4回) ⇒文型—復習と応用—: \*原形不定詞初出

中2G4で「文科省学習指導要領中学範囲」が一通り修了。テキストやプリントで毎回読解を扱います。

Eターム以降は復習をしながら高校範囲の文法事項(\*付きの事項)へと踏み込んで行きます。

授業の最初の文法演習プリントと最後の dictation のお帰り問題で、定着度を確認しています。

**▽中3:小ターム[G1 など]ごとに1冊のテキスト(前半は文法テーマ別・後半は出題形式別)を配付**

春期講習(4回):不定詞/動名詞・分詞/受動態・現在完了/関係詞

G1ターム(3回)⇒文法テーマ別:品詞と文の要素・文型 出題形式別:文法・語彙・読解

G2ターム(4回)⇒文法テーマ別:名詞相当語句 出題形式別:文法・語彙・読解

G3ターム(3回)⇒文法テーマ別:形容詞相当語句 出題形式別:文法・語彙・読解

G4ターム(3回)⇒文法テーマ別:副詞相当語句 出題形式別:文法・語彙・読解

夏期講習(8回):不定詞/動名詞・分詞/受動態/完了形/関係詞/接続詞/話法/前置詞

E1ターム(3回)⇒文法テーマ別:助動詞(法助動詞全て 助動詞の過去形) 出題形式別:文法・語彙・読解

E2ターム(4回)⇒文法テーマ別:完了形(完了時制全てと準動詞の完了形)とSVOCの文 出題形式別:文法・語彙・読解

E3ターム(4回)⇒文法テーマ別:仮定法 出題形式別:文法・語彙・読解

E4ターム(3回)⇒文法テーマ別:分詞構文 出題形式別:文法・語彙・読解

冬期講習(4回):大学受験に向けて高校レベルの読解力養成

F1ターム(3回)⇒文法テーマ別:複合関係詞・強調・倒置 出題形式別:文法・語彙・読解

F2ターム(4回)⇒文法テーマ別:比較表現 出題形式別:文法・語彙・読解

中3では全クラスで授業内に毎回、和訳問題などの添削を行っています。

夏期講習から大学入試の読解問題を扱い始め、F2までに高校範囲の文法事項を一通り修了します。

授業の最後の Sentences for Workout の dictation は、中学生最後の授業まで行い続けます。

**▽高1:小ターム[G1 など]ごとに2冊のテキスト(Grammar & Writing と Reading & Listening)を配付**

春期講習(4回) フレッシュャーズ講座:読解・リスニング・作文・文法

G1ターム(3回)⇒Grammar & Writing 1:不定詞 Reading & Listening 1

G2ターム(4回)⇒Grammar & Writing 2:動名詞・分詞 Reading & Listening 2

G3ターム(3回)⇒Grammar & Writing 3:分詞構文 Reading & Listening 3

G4ターム(3回)⇒Grammar & Writing 4:関係代名詞 Reading & Listening 4

夏期講習(8回):不定詞・動名詞・分詞・分詞構文・関係代名詞・関係副詞・複合関係詞

E1ターム(3回)⇒Grammar & Writing 5:比較表現 Reading & Listening 5

E2ターム(4回)⇒Grammar & Writing 6:仮定法 Reading & Listening 6

E3ターム(4回)⇒Grammar & Writing 7:接続詞 Reading & Listening 7

E4ターム(3回)⇒Grammar & Writing 8:前置詞 Reading & Listening 8

冬期講習(4回):比較表現・仮定法・接続詞・前置詞

F1ターム(3回)⇒Grammar & Writing 9:否定表現 Reading & Listening 9

F2ターム(4回)⇒Grammar & Writing 10:特殊構文 Reading & Listening 10

高1になると GSL が長文の音声になり、お帰りに問題の dictation も、長文の穴埋め問題です。

英作文の添削指導を全クラスで行っています。

高2(G1 から E4 まで全 39 回)で高1の学習範囲を更に深めつつもう一度学習します。テキストは高1同様、Grammar & Writing と Reading & Listening (GSL 対応)の2本立てです。夏期講習か

らどのクラスでも「要約問題」に取り組むようになります(授業内で添削後、解説します)。

高3(高2の冬期講習から【読解】と【作文・文法】各45回)になると、授業が【読解】と【作文・文法】に別れ、それぞれ2時間行います。どちらの授業でも毎回 Workout すべき GSL を配信し、相当量の宿題[テキスト]と演習[プリント]、添削[要約や英作文]を通じて、万全の英語力を養います。

▼参考資料2: GNOBLE テキスト文法説明部分(太字になっている例文は本編3. で引用)

### 【中1E4 ターム『接続詞入門』より】

#### Section 3: that

- 01 We know that she is from Okinawa.
- 02 We know she is from Okinawa.
- 03 I think that you are busy.
- 04 I thought that you were busy.
- 05 We learned that the earth is round.
- 06 I don't believe he will come.
- 07 You told me that your mother was sick.
- 08 **We are happy that you saw your mother again.**
- 09 I'm afraid you can't come with me.
- 10 Are you sure that he will win the race?

中1テキストの文法説明部分は Sentences for Workout のみです

### 【中2夏期講習—Day 8『関係代名詞』より】

#### Section 1 主格の関係代名詞



—Sentences for Workout—

- 01 I know the man who came to see you.
- 02 The man who came to see you was American.
- 03 Do you know anyone who has seen a ghost?
- 04 Anyone who has seen a ghost can become a member.
- 05 The boy that is playing tennis is my classmate.
- 06 The boys that are playing tennis are my classmates.
- 07 This is the dog which bit me.
- 08 The dog which bit me was Bob's.
- 09 I went to the supermarket which opened last week.
- 10 The supermarket which opened last week stays open until midnight.
- 11 I'm looking for a novel that was written by the writer.
- 12 **The novel that was written by the writer won the prize.**

- 01 私はあなたに会いに来たその男性を知っている。  
 02 あなたに会いに来たその男性はアメリカ人でした。  
 03 幽霊を見たことがある人を誰か知っていますか。  
 04 幽霊を見たことがある人なら誰でも会員になることができます。  
 05 テニスをしているその男の子は私のクラスメートです。  
 06 テニスをしているその男の子たちは私のクラスメートです。  
 …和訳途中省略…  
 12 その作家によって書かれたその小説は、賞を受賞しました。

中2テキストの文法説明部分は Sentences for Workout とその和訳のみです

### 【中3夏期講習—Day 6『接続詞』より】

#### Section 4 名詞節を導く従位接続詞



—Sentences for Workout—

- 01 That he is honest is quite certain.  
 02 It's surprising that you have finished the work so soon.  
 03 It's true that life in the city is convenient, but I prefer to live in a quiet place.  
 04 **My first impression was that he was really funny.**  
 05 The dictionary is really helpful, but the only trouble is that it has a few printing errors.  
 06 Do you know that he has been in a hospital?  
 07 I think I've met you before, but I can't remember your name.  
 08 I'm afraid that I will not be free until the examination is over.  
 09 Many people don't accept the fact that they are equal.  
 10 She asked if I felt better.  
 11 She looked around to see if anyone was watching her.  
 12 I don't know whether he will come or not.  
 13 Whether he is rich or poor doesn't matter to me.

- 01 彼が正直者であることはかなり確実だ。  
 02 その仕事をあなたがそんなにもすぐに終わらせたことは驚きです。  
 03 都会での生活は便利なことは事実ですが、私は静かな場所に住むことを好みます。  
 04 私の最初の印象は、彼は本当に愉快な人間だということでした。  
 05 その辞書は本当に便利ですが、唯一の問題は、2、3の誤植があることです。  
 06 彼が入院しているのを知っていますか？  
 07 私は以前、あなたに会ったことがあると思うのですが、名前を思い出せません。  
 08 おそらく、私は試験が終わるまで暇にはならないでしょう。  
 09 多くの人間が、自分たちは平等であるという事実を受け入れない。  
 10 私の気分が良いかどうか、彼女は尋ねた。  
 11 誰かが彼女を観察しているかどうか確かめるため、彼女はあたりを見渡した。  
 12 彼が来るかどうか私には分からない。  
 13 彼が金持ちか貧乏かということは、私には問題ではない。

中3テキストの文法説明部分は、Sentences for Workout とその和訳のみです

## 【高1G4 ターム『関係詞』より】

### Section 6: 関係代名詞—what—

—Sentences for Workout—

- (1) What is important is to do it for yourself.
- (2) This is what everyone wants to know.
- (3) **I don't believe what you've just said.**
- (4) Concentrate your attention on what you are doing.
- (5) She is not what she used to be.
- (6) My sister is interested in what is called pop music.
- (7) He is a great politician, and, what is more, a good scholar.
- (8) Reading is to the mind what food is to the body.

- (1) 大事なことはそれを自分の力でやることです。
- (2) これが、皆が知りたがっていることです。
- (3) 私はあなたがたった今言ったことが信じられない。
- (4) 自分のしていることに、注意を集中させなさい。
- (5) 彼女は、以前の彼女ではない。
- (6) 私の姉はいわゆるポップミュージックに興味がある。
- (7) 彼は偉大な政治家で、そしておまけに、優れた学者だ。
- (8) 読書と精神との関係は、食べ物と肉体との関係に等しい。

関係代名詞の **what** は先行詞をその中に含んでいるので先行詞なしで用いる。(よって、制限用法しかない。) **the thing(s) which** に相当することが多い。例えば①Show me **the thing which** you have in your hand.「あなたが手の中に持っているものを見せなさい。」は②Show me **what** you have in your hand.と同じである。それぞれの文で関係詞が導く節は以下ようになる。

- ①Show me the thing<sub>(Ⓢ)</sub> (**which** you have in your hand). ⇒ **which** が導くのはⓈを修飾する形容詞節
- ②Show me [**what** you have in your hand]. ⇒ Ⓢをその中に含む **what** が導くのは名詞節

▼関係代名詞の **what** は名詞節を導くので、**what** 節は文中で名詞と同じ働きをする。

- (1) [**What** is important]<sub>(S)</sub> is to do it for yourself.
- (2) This is [**what** everyone wants to know]<sub>(C)</sub>.
- (3) I don't believe<sub>(Ⓢ)</sub> [**what** you've just said]<sub>(O)</sub>.
- (4) Concentrate your attention on<sub>(Ⓢ)</sub> [**what** you are doing]<sub>(O)</sub>.

**注意** Tell me **what** you want. の **what** は関係代名詞と疑問詞の両方の解釈を許す。関係代名詞なら「君が欲しいものを私に教えて」となり、疑問詞なら「君が何を欲しいかを私に教えて」の意味になる。後者は疑問詞が導く名詞節[間接疑問]である。(以下省略…)

高校生の文法テキストに解説があるのは、授業で導入からの説明はもう行わないためです。  
高校生の Sentences for Workout の英文は8割方 GNOBLE の中学生テキストから採っています。